情報活用能力の育成について　～変化の激しい時代に対応できる力を～

校長　新保　喜和

先日は、授業参観・学級懇談会に多くの保護者の皆さまにご参加いただきありがとうございました。授業参観では、子どもたちがいつも以上に張り切って授業に取り組む様子が見られ、よい緊張感の中で学習が進められていました。次回は、5 月 28 日の体育祭です。ご予定をお願いします。

さて、学校経営方針は「私たちは今、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代に生きています。」という言葉から始まっています。こうした認識の背景には、AI やビッグデータ、IoT といった技術革新が、「Society 5.0」と呼ばれる新しい社会をもたらし、私たちの生活や働き方を根底から変えようとしている現状があります。このような時代においては、情報をただ受け取るだけでなく、自ら選び、活用し、新たな価値を創出する力、すなわち「情報活用能力」が、子どもたちにとってこれまで以上に不可欠なものとなります。

1. 学習の基盤としての「情報活用能力」

学習指導要領では、「学習の基盤となる資質・能力」として言語能力　②情報活用能力　③問題発見・解決能力の 3 つの力が定義されています。

学校では 1 人 1 台の iPad を活用し、自ら情報を収集・整理し、根拠に基づいて考えをまとめ、友だちに発信したり、共有したりする学習を実践しています。また、デジタル化は環境保護やコスト削減、教職員の業務改善にも寄与しています。

2. なぜ「情報活用能力」が必要なのか

その背景には、日本が人口減少社会に直面していることがあります。

(1)2050 年の予測

現在の中学生が社会の主役となる 2050 年ごろ、日本の生産年齢人口(15～64 歳)は、2020 年の 7,509 万人から 5,540 万人へ、約 26%(約 2,000 万人)

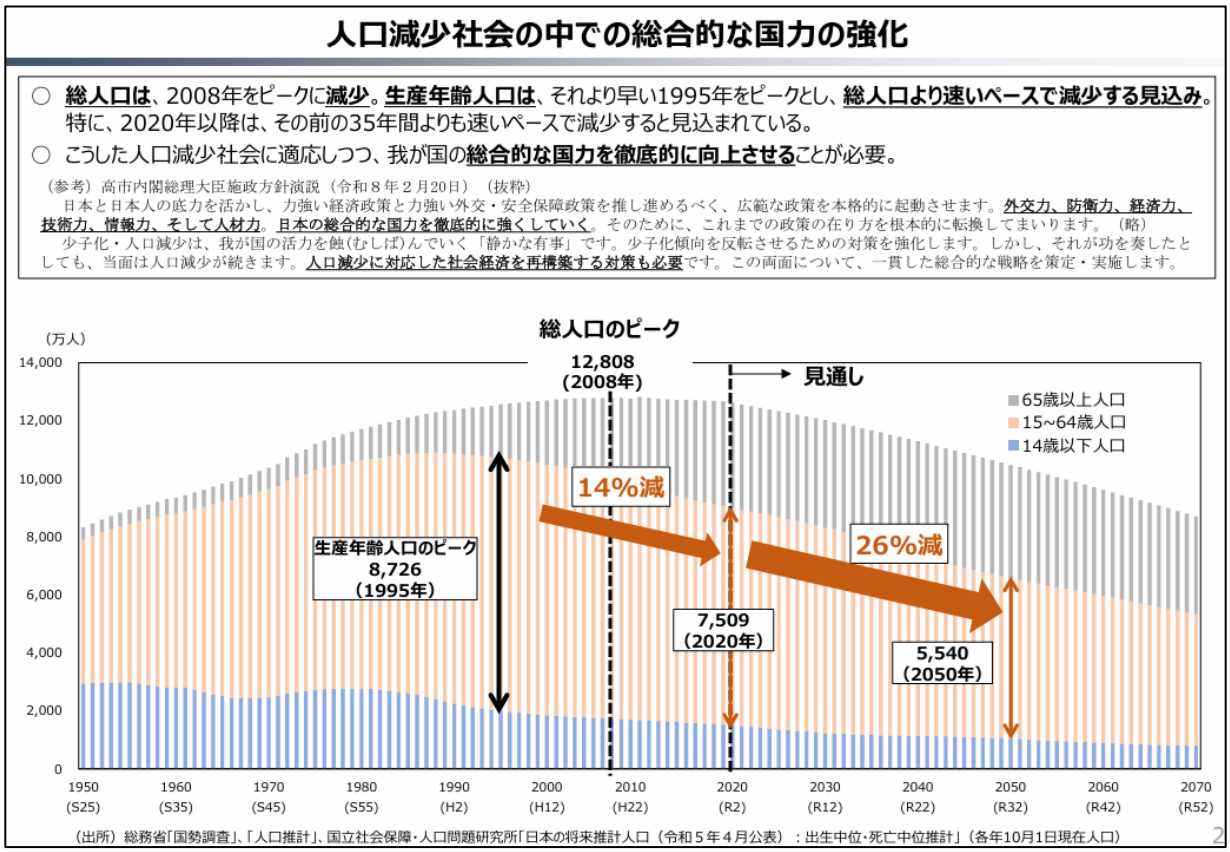
減少すると見込まれています。

(2)求められる働き方

労働力が大幅に減る中で、これまで通りの働き方を維持することは困難です。テクノロジーの力を借りて効率を上げ、「人間にしかできない判断」に注力することが不可欠になります。

(3)キャリアの変容

終身雇用制のあり方が変化し、転職やキャリアチェンジがこれまで以上に身近になる時代になると予想されています。



『人口減少社会の中での総合的な国力の強化』 令和8年４月

3. デジタルトランスフォーメーション(DX)の先へ

今後の社会のキーワードは「DX(デジタルトランスフォーメーション)」です。これは単なる IT 化ではなく、デジタル技術によって人々の生活をより良く変革し、既存の枠組みを超えたイノベーションを起こすことを意味します。

子どもたちが将来、どのような環境においても「人間らしく」豊かに人生を歩んでいけるよう、学校と家庭が連携して、新しい時代を生きる力を育んでいきたいと考えています。

昨日、「教育における生成 AI の利用について」を配布しておりますので、ぜひ、そちらもお子さまとご確認ください。